

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
27-121	高等学校	国語	国語総合	
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
50 大修館	国総344/345	国語総合 改訂版 現代文編 古典編		

1. 編修上の趣旨及び留意点

教育基本法や学校教育法改正の趣旨をふまえ、国民として必要な国語力の知識・教養の修得と、生涯にわたって学習する基盤とその意欲をはぐくむことで豊かな人間性、創造性を養い、国家及び社会の形成者として必要な資質の育成に寄与する教科書をめざした。

2. 編修の基本方針

- ・国語の学習によって、言葉で伝え合う力を高めることを重視し、言語活動を通して、思考力を伸ばし、創造性を養い、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を喚起することで、総合的な国語力が身に付くよう配慮する。
- ・現代文編については、教育基本法第2条に示された教育目標への対応に配慮しつつ、近代から現代まで、さまざまな内容、ジャンルの教材を幅広く取り上げる。
- ・古典編については、高校生が身に付けるべき教養として必要な古典作品を精選して収録し、我が国の伝統と文化を尊重する態度をはぐくむよう配慮する。
- ・教材化にあたっては、生徒の興味・関心を喚起しつつ、言語活動を通して、生徒が主体的に学習に取り組めるよう配慮する。

3. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
現代文編【一 評論】 一 文化への視点 富士山のカタチ/水の東西	・幅広い知識と教養を身に付けるとともに、伝統や文化を重んじる態度を養うことをねらいとし、日本人の感情に深く根ざしている富士山について論じた「富士山のカタチ」、日本文化と西洋文化の違いを考える「水の東西」を収録した。(第1・5号)	pp. 10-25
二 社会と個人 自由な主体に必要な「尋ねあい」/人は独創的でありたいか	・自主・自立の精神を養うとともに、社会の形成に主体的に参画する態度を養うことをねらいとし、他者とかかわり合いながら価値をすり合わせて合意を形成していくことの大切さを説いた「自由な主体に必要な『尋ねあい』」、前近代社会と近代社会との比較をとおり、個人の在り方や「独創的」ということについて考える「人は独創的でありたいか」を収録した。(第2・3号)	pp. 26-39
三 美への探求 「美しさの発見」について/ヘンデルとカチ	・幅広い知識と教養を身に付け、豊かな情操を涵養することをねらいとし、芸術論『美しさの発見』について、音楽論「ヘンデルとカチ」を収録した。(第1号)	pp.40-55
四 コミュニケーションと他者 他者を理解するという事/空気を読む	・自他の敬愛と協力を重んじ、主体的に社会の発展に寄与する態度を養うことをねらいとし、多文化社会において他者を尊重することを論じた「他者を理解するという事」、現代社会の集団生活の中で、より自立した個の形成および主体的な社会形成について考えさせる「空気を読む」を収録した。(第2・3号)	pp.56-67
五 科学と環境問題 「知る」と「わかる」こと/自然と人間の関係をとおり考える	・生命を尊び、自然や環境を大切にすることをねらいとし、iPS細胞を例に科学的思考に触れ、科学の役割について考えさせる『知る』ことと『わかる』こと、自然保護の原点を考えさせ、環境問題について新たな視点を与える「自然と人間の関係をとおり考える」を収録した。(第4号)	pp. 68-85
六 言葉の力 言葉についての新しい認識/方言の時代	・言語についての幅広い知識と教養を身に付けるとともに、伝統や文化への理解を深めることをねらいとし、日本語と外国語における認識の違いについて論じる「言葉についての新しい認識」、現代社会における方言の位置づけを論じる「方言の時代」を収録した。(第1・5号)	pp. 86-101

<p>七 グローバリズムのかたち グローバル化とグローバリズム ／「かわいい」現象</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統と文化を重んじ、国際社会の発展に寄与する態度を養うことをねらいとし、グローバル化とグローバリズムとの違いを論じた「グローバル化とグローバリズム」、現代的文化現象の背景に日本の伝統文化が息づいていることを考えさせる『「かわいい」現象』を収録した。(第5号) 	pp. 102-119
<p>八 メディア社会としての現代 メディアとしての顔／消費されるスポーツ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな情報の中から真理を求め、主体的に社会の形成に参画する態度を養うことをねらいとし、顔をコミュニケーションのためのメディアとして論じる「メディアとしての顔」、大衆消費社会におけるスポーツについて論じる「消費されるスポーツ」を収録した。(第1・3号) 	pp. 120-137
<p>九 身体と思考 意味と身体／白</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い知識と教養を身に付け、豊かな創造性を培うことをねらいとし、言葉の意味と身体的実感の不均衡状態から創造的な言語活動が生じるとする「意味と身体」、「白」というイメージについて論じ、美意識や知性のあり方を考える「白」を収録した。(第1・2号) 	pp. 138-154
<p>【二 文学】 一 近代の小説 羅生門／『今昔物語集』巻第二 九第一八／夢十夜／富嶽百景／ セメント樽の中の手紙／城の崎 にて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・想像力を養い、豊かな情操を培うことをねらいとし、近代の名作「羅生門」、夢の中の出来事を幻想的に描く「夢十夜」、富士山の見える御坂峠での滞在生活をとおして変化する「私」の心情を描いた「富嶽百景」、苛酷な労働による悲劇を描く「セメント樽の中の手紙」、生きものの生死について考えを深める「城の崎にて」を収録した。(第1号) ・「羅生門」の典拠となった『今昔物語集』を掲載し、日本の古典が近代、ひいては現代にまで生き続けていることがわかるよう配慮した。(第5号) 	pp. 156-213
<p>二 現代の小説 コート／鏡／良識派／友よ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・想像力を養い、豊かな情操を培うことをねらいとし、おさがりのコートをめぐる姉妹の物語を描いた「コート」、自分自身と向き合うことの恐怖を怪談仕立てて描いた「鏡」を収録した。(第1号) ・正義と責任を重んじ、生命を尊ぶとともに、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことをねらいとし、戦争のもたらした爪痕を描いた「友よ」、主体性を欠く態度が悲惨な結果を招くさまを寓話的に描いた「良識派」を収録した。(第3・4・5号) 	pp. 214-253
<p>三 随想・詩歌 おまえはやって来た／ 短歌を訳す一言の壁を越えて ／贅のうへ／一つのメルヘン／ 自分の感受性くらい／ 短歌 十五首／俳句 十二句</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・想像力を養い、豊かな情操を培うとともに、我が国の言語文化に親しむことをねらいとし、優れた随想・詩歌を収録した。(第1・5号) ・短歌を英訳したり、古典和歌を現代語訳する「短歌を訳す」を収録し、現代に通じる伝統的な言語文化の豊かさを理解できるように配慮した。(第5号) 	pp. 254-284
<p>古文編 一 古文入門 古典に親しむ／児のそら寝／ 絵仏師良秀／阿蘇の史、盗人に あひてのがること／猿、恩を 知ること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・古文を読むための基礎的な知識を身に付け、古典作品の特質を知ることがねらいとし、説話教材 3 作品 4 本を収録し、古文学習へのスムーズな導入を図った。(第1号) ・近現代の文学にも影響を与えた説話の魅力を知り、我が国の伝統的な言語文化を尊重する態度を涵養できるよう、教材化に配慮した。(第5号) 	pp. 8-27
<p>二 随筆 徒然草／枕草子</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・古人の豊かな情操にふれることをねらいとし、随筆教材 2 作品 9 本を収録した。(第1号) ・個人の価値を尊重し、創造性を培うことをねらいとし、『徒然草』では、滑稽譚・教訓譚、『枕草子』では随想的章段・類集的章段・日記的章段など、幅広い内容と形式の章段を収録した。(第2号) ・我が国の自然風土と言語文化の密接な関係に気づくことをねらいとし、作者の自然観や美意識が表れた章段を収録した。(第4号) ・作品を通じて我が国の伝統的な言語文化を尊重する態度を涵養できるように、教材化に配慮した。(第5号) 	pp. 28-49
<p>三 物語 竹取物語／伊勢物語</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・想像力を養い、豊かな情操を培うことをねらいとし、物語教材 2 作品 5 本を収録した。(第1号) ・我が国の伝統的な言語文化を尊重する態度を養うことをねらいとし、我が国最古の作り物語である『竹取物語』および、代表的な歌物語である『伊勢物語』を収録し、教材化に配慮した。(第5号) 	pp. 50-63
<p>四 日記 土佐日記</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・当時の旅の様子や暦、時刻、方位など古典に関する幅広い知識を身に付け、豊かな情操を培うとともに、我が国の伝統的な言語文化を尊重する態度を養うことをねらいとし、仮名日記文学の先駆としての『土佐日記』から 3 本を収録した。(第1・5号) 	pp. 64-71

<p>五 軍記 平家物語</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・劇的な展開とリズムカルな文体をもつ軍記作品について知ることをねらいとし、『平家物語』から2本収録した。(第1号) ・正義と責任、自他の敬愛を重んずる態度を養うことをねらいとし、義仲主従の最期を描いた「木曾の最期」を収録した。(第3号) ・我が国の伝統的な言語文化を尊重する態度を養うことをねらいとし、『平家物語』が後世の文化や芸能に与えた影響について紹介するコラムを設けるなど、教材化に配慮した。(第5号) 	pp. 72-83
<p>六 和歌・俳諧 万葉集／古今集／新古今和歌集 ／「和歌」という言葉の意味／ 奥の細道</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・想像力を養い、豊かな情操を培うことをねらいとし、和歌教材3作品28首および俳諧紀行文1作品3本を収録した。(第1号) ・生命を尊び、自然を大切にする態度を養うことをねらいとし、我が国の四季折々の自然風土を詠んだ作品を収録した。(第4号) ・我が国の伝統文化への興味・関心を喚起し、理解を深めることをねらいとし、和歌の歴史や特質について述べた、古典に関連する近代以降の文章『「和歌」という言葉の意味』を収録した。(第5号) 	pp. 84-109
<p>七 評論 玉勝間／風姿花伝</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・真理を求める態度を養うことをねらいとし、伝統的な言語文化に対する知識と、ものの見方、考え方を身に付けるための評論教材2作品2本を収録した。(第1号) ・近世の評論作品を通じて我が国の伝統的な言語文化を尊重する態度を涵養できるよう、教材化に配慮した。(第5号) 	pp. 110-114
<p>漢文編 一 漢文入門</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・漢文を読むための基礎的な知識を身に付けることをねらいとし、人口に膾炙した格言を中心に例文を豊富に収録し、漢文学習へのスムーズな導入を図った。(第1号) ・我が国の伝統的な言語文化を尊重する態度を養うことをねらいとし、漢字漢文の伝来の歴史と、漢文が我が国の文化を形成発展させる上で果たした役割について具体的な写真資料とともに示した。(第5号) 	pp. 116-129
<p>二 故事成語 漁父之利／蛇足／五十歩百歩／ 朝三暮四</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い知識と真理を求める態度を養うことをねらいとし、現代でも使われる言い回しのもととなった故事を4本収録した。(第1号) ・寓意を含んだ短文の訓読を通じて、我が国の伝統的な言語文化を尊重する態度を涵養できるよう、教材化に配慮した。(第5号) 	pp. 130-138
<p>三 古代の史話 先従隗始／鶏鳴狗盜／臥薪嘗胆</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・当時の時代背景や地理などの幅広い知識と真理を求める態度を養うことをねらいとし、史話教材3本を収録した。(第1号) ・歴史上実在する人物の生き方を通じて、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことができるよう配慮した。(第3号) ・中国の歴史書の表現の特徴と我が国に与えた影響を知り、我が国の伝統的な言語文化を尊重する態度を涵養できるよう、教材化に配慮した。(第5号) 	pp. 139-149
<p>四 唐代の詩 絶句／律詩／古体詩</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・想像力を養い、豊かな情操を培うことをねらいとし、唐詩の名作11首を収録した。(第1号) ・漢語の特色を活かして緊密に構成された韻文の訓読を通じて、我が国の伝統的な言語文化を尊重する態度を涵養できるよう、教材化に配慮した。(第5号) 	pp. 150-165
<p>五 唐代の文章 雑説／黔之驢</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・真理を求める態度を養うことをねらいとし、唐代の論説文2本を収録した。(第1号) ・達意の名文として知られる韓愈・柳宗元の文章の訓読を通じて、我が国の伝統的な言語文化を尊重する態度を涵養できるよう、教材化に配慮した。(第5号) 	pp. 166-170
<p>六 孔子と孟子の思想 学問／政治</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統的な言語文化に対する幅広い知識と、真理を求める態度を養うことをねらいとし、中国古典を代表する書物であり、日本人の精神形成にも影響を与え続ける『論語』13章、『孟子』2章を収録した。(第1号) ・古典の現代的意義を知り、理解を深めることをねらいとし、古典に関連する近代以降の文章として、『論語』の章句について解説した文章3本を収録した。(第5号) 	pp. 171-180
<p>七 唐代の物語 人面桃花／桃いろいろ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・想像力を養い、豊かな情操を培うことをねらいとし、唐代の伝奇小説「人面桃花」を収録した。(第1号) ・他国の文化を尊重するとともに、我が国の伝統文化への興味・関心を喚起して理解を深めることをねらいとし、中国古典に描かれた「桃」について述べた、古典に関連する近代以降の文章「桃いろいろ」を収録した。(第5号) 	pp. 181-191

4. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点

- ・現代文編においては、「表現の窓」として、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の言語活動を、「読むこと」の教材との有機的なつながりを意識しつつ体系的に位置づけ、「伝え合う力」を総合的に培えるように配慮した。また、「評論の視点」「文学の視点」として、教材や単元に関連する知識をまとめたコラムを設け、幅広い知識や教養を身に付けられるよう工夫した。現代文編末には、評論などでよく取り上げられるテーマや語句について解説した「キーワード解説」を設置した。
- ・古典編においては、巻頭図録を設け、古典の舞台・暮らし・時間に関する写真資料や地図等を示し、作品世界により親しみやすくなるよう配慮した。

編修趣意書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

※受理番号	学校	教科	種目	学年
27-121	高等学校	国語	国語総合	
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
50 大修館	国総344/345	国語総合 改訂版 現代文編 古典編		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

●基本方針

国語の学習によって、言葉で伝え合う力を高めることを重視し、言語活動を通して、思考力を伸ばし、創造性を養い、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を喚起することで、総合的な国語力を身に付けさせることを基本方針とする。

●構成

「現代文編」と「古典編」の2分冊とし、各学校現場の実情にあわせて多様な授業形態に対応できるよう配慮した。「現代文編」は全体を「評論」「文学(小説・随想・詩歌)」の2章に分け、それぞれのジャンルの特色をとらえつつ、重点的学習、系統的学習等が効果的に行えるようにした。「言語活動例」については、「表現の窓」の章を設け、教材文と有機的に関連づけながら、学習する上での要点と学習の進め方を簡潔に記述するよう留意した。

●教材選択にあたっての配慮

「現代文編」では、評価の定まっている基本的な教材と、現代の高校生が読むに値するテーマを追求した教材とを組み合わせるように留意した。論理的思考力を育てるため、評論教材に質・量ともに重点を置き、あわせて小説教材に近代の名作を数多く収録、多読の授業展開が可能となるよう配慮した。

「古典編」では、古文編・漢文編ともに入門単元を設け、古典学習への丁寧な導入を心がけた。また、高校生として必ず学んでおくべき教材を精選するとともに、古典について書かれた近代以降の文章を収録し、我が国の伝統文化への興味・関心を喚起し、理解を深められるよう配慮した。

●教材化の工夫

- 1 脚注、注意する語句、設問などを適切に付した。また、教材を学習する上での手がかりとして、「学習のポイント」「課題」などを設け、その教材の学習を実践的に行うことができるよう配慮した。
- 2 漢字・語彙の学習に役立つよう、本文中の重要語に印を付け、「学習のポイント」の「漢字と熟語」欄にまとめた。さらに、読み替えや同音異義語、対義語などの情報を充実させ、漢字・語彙の学習に資するようにした。
- 3 評論などを読み解く際に大切な語句を「キーワード」として示した。現代文編「付録」の「キーワード解説」とあわせて語彙力の育成に資するようにした。
- 4 教材末に「次の一冊」の項目を設け、教材に関連した書籍を紹介し、解説を施すことで、読書生活を豊かにし、生涯にわたって本に親しむ態度をはぐくむよう配慮した。
- 5 「古典編」の脚注欄では、人名には「人」、地名には「地」、補足的な情報には「補」の記号をつけ、参照しやすいよう配慮した。また、本文中の「重要古語」「訓読で注意する文字」に印を付け、巻末の「重要古語索引」「訓読で注意する文字一覧」でそれぞれ一覧できるようにした。

●コラムの充実

- 1 評論單元には、論理的思考力を着実に高めるためのコラム「評論の視点」、文学單元には、作品をより深く豊かに味わうためのコラム「文学の視点」を収録した。
- 2 古典を読む力を磨くコラム「古文を読むために」「漢文を読むために」を収録した。用例を豊富に示し、図解を効果的に用いて、生徒の意欲を喚起するよう配慮した。また、古典の教材理解に役立つ背景知識をまとめたコラム「古文の窓」「漢文の窓」を収録した。

●付録の充実

「古典編」では、巻頭図録を設け、写真資料や地図などを豊富に示し、教材の理解をより深められるよう配慮した。

2. 対照表

図書の内容・構成	学習指導要領の内容															箇所	担当 授業 時数										
	A話すこと・聞くこと(1)				A話すこと・聞くこと(2)			B書くこと(1)			B書くこと(2)			C読むこと(1)				C読むこと(2)			伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項						
	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ			ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ			
[現代文編]																											
一 評論																											
一 文化への視点	富士山のカタチ	○	○	○																	○	○	p10～ 25	A:0 B:0 C:3 計3			
	水の東西	○	○	○	○			○													○	○		○			
	評論の視点①																							○			
二 社会と個人	自由な主体に必要な「尋ねあい」		○	○																		○	○	○	p26～ 39	A:0 B:0 C:3 計3	
	人は独創的でありたいか								○	○	○											○	○	○			
	評論の視点②																							○			
三 美への探求	「美しさの発見」について	○	○	○	○																	○	○	○	p40～ 55	A:0 B:0 C:3 計3	
	ヘンデルと力士	○	○	○	○																	○	○	○			
	評論の視点③																							○			
四 コミュニケーションと他者	他者を理解するということ	○	○	○																		○	○	○	p56～ 67	A:0 B:0 C:3 計3	
	空気を読む		○						○	○	○												○	○			
	評論の視点④																							○			
五 科学と環境問題	「知る」ことと「わかる」こと	○	○	○	○																	○	○	○	p68～ 85	A:0 B:0 C:4 計4	
	自然と人間の関係をとおして考える		○	○	○																		○	○		○	
	評論の視点⑤																							○			
六 言葉の力	言葉についての新しい認識		○	○	○																		○	○	○	p86～ 101	A:0 B:0 C:4 計4
	方言の時代		○	○	○																		○	○	○		
	評論の視点⑥																							○			
七 グローバリズムのかたち	グローバル化とグローバリズム	○	○	○	○																	○	○	○	p102～ 119	A:0 B:0 C:4 計4	
	「かわいい」現象		○	○	○																		○	○		○	
	評論の視点⑦																							○			
八 メディア社会としての現代	メディアとしての顔									○	○												○	○	○	p120～ 137	A:0 B:0 C:4 計4
	消費されるスポーツ		○	○																			○	○	○		
	評論の視点⑧																							○			
九 身体と思考	意味と身体	○	○	○																			○	○	○	p138～ 154	A:0 B:0 C:4 計4
	白		○	○	○	○																	○	○	○		
	評論の視点⑨																							○			
二 文学																											
一 近代の小説	羅生門	○	○	○																		○	○	○	p156～ 213	A:0 B:0 C:8 計8	
	参考『今昔物語集』巻第二九第一八	○	○	○	○																	○	○	○			
	夢十夜	○	○	○																			○	○			○
	富嶽百景		○	○																			○	○			○
	セメント樽の中の手紙	○	○	○	○																		○	○			○
	城の崎にて	○	○	○	○																		○	○			○
文学の視点①																						○	○				
二 現代の小説	コート	○	○	○	○																		○	○	○	p214～ 253	A:0 B:0 C:6 計6
	鏡		○	○																			○	○	○		
	良識派	○	○	○	○																		○	○	○		
	友よ	○	○	○	○	○																	○	○	○		
文学の視点②																							○				
三 随想・詩歌	おまえはやって来た		○	○																			○	○	○	p254～ 284	A:0 B:0 C:5 計5
	短歌を詠す一言の壁を越えて	○	○	○	○																		○	○	○		
	甃のうへ																						○	○	○		
	一つのメルヘン																						○	○	○		
	自分の感受性くらい																							○	○		
	短歌 十五首		○	○	○																		○	○	○		
俳句 十二句																						○	○	○			

図書の構成・内容		学習指導要領の内容															箇所	担当 授業 時数										
		A話すこと・聞くこと(1)				A話すこと・聞くこと(2)			B書くこと(1)			B書くこと(2)			C読むこと(1)				C読むこと(2)			伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項						
		ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ			ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
表現の窓	1 話すこと・聞くことの基礎		○	○	○			○																			p286～ 306	A:15 B:30 C:2 計47
	2 書くことの基礎							○		○	○		○	○														
	3 自分の考えを話す	○	○		○			○																				
	4 手紙を書く							○	○	○	○		○							○			○	○	○			
	5 調べたことを報告する	○	○		○			○	○	○	○		○				○		○	○								
	6 意見を論理的にまとめる							○	○	○	○		○															
	7 司会者を立てて話し合う	○	○	○	○			○																				
	8 資料をもとに文章を書く							○	○	○	○		○							○								
	9 発表の方法と進め方	○	○	○	○	○	○																					
	10 本のPOPを作る		○		○			○	○	○	○		○				○		○	○			○					
付録	キーワード解説												○	○									○			p307～311		
[古典編]																												
古文編																												
一 古文入門	古典に親しむ												○	○		○	○			○						p8～ 27	A:0 B:0 C:3 計3	
	児のそら寝												○	○		○	○			○								
	古文を読むために①																			○			○					
	絵仏師良秀							○					○	○		○	○			○			○					
	古文を読むために②																			○			○					
	阿蘇の史、盗人にあひてのがること	○	○		○								○	○		○	○			○			○					
	古文を読むために③																			○			○					
猿、恩を知ること	○	○		○								○	○		○	○			○			○						
言語活動 古典の広がりを知ろう																○			○			○						
二 随筆	徒然草	○	○		○			○					○	○		○	○			○			○			p28～ 49	A:0 B:0 C:4 計4	
	古文を読むために④																			○			○					
	枕草子	○	○		○								○	○		○	○			○			○					
	古文を読むために⑤																			○			○					
三 物語	竹取物語							○					○	○		○	○			○			○			p50～ 63	A:0 B:0 C:3 計3	
	伊勢物語	○	○		○								○	○		○	○			○			○					
	古文の窓②													○						○								
四 日記	土佐日記	○	○		○								○	○		○	○			○			○			p64～ 71	A:0 B:0 C:2 計2	
	古文の窓③													○						○								
五 軍記	平家物語				○			○					○	○		○	○			○			○			p72～ 83	A:0 B:0 C:3 計3	
	古文の窓④													○						○								
六 和歌・俳諧	万葉集・古今和歌集・新古今和歌集												○	○		○	○			○			○			p84～ 109	A:0 B:0 C:4 計4	
	参考 歌謡(今様と小歌)												○	○		○	○			○			○					
	古文のとびら 「和歌」という言葉の意味												○	○		○	○			○			○					
	古文を読むために⑥													○						○			○					
	奥の細道	○	○		○								○	○		○	○			○			○					
古文の窓⑤													○						○									
七 評論	玉勝間												○	○		○	○			○			○			p110～ 114	A:0 B:0 C:2 計2	
	風姿花伝	○	○		○								○	○		○	○			○			○					

図書の構成・内容	学習指導要領の内容																箇所	担当 授業 時数												
	A話すこと ・聞くこと (1)				A話すこと ・聞くこと (2)				B書くこと (1)				B書くこと (2)						C読むこと (1)				C読むこと (2)				伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ			ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ
漢文編																														
一 漢文入門	漢文とは																												p116～ 129	A:0 B:0 C:2 計2
	1 訓読																													
	漢文を読むために①																													
	2 返り点																													
	漢文を読むために②																													
	3 再読文字																													
	漢文を読むために③																													
	4 助字																													
	漢文を読むために④																													
5 訓読に親しむ																														
漢文を読むために⑤																														
漢文の窓①																														
二 故事成語	漁父之利																												p130～ 138	A:0 B:0 C:3 計3
	蛇足																													
	五十歩百歩																													
	朝三暮四																													
漢文の窓②																														
三 古代の史話	先従隗始																												p139～ 149	A:0 B:0 C:4 計4
	鶏鳴狗盗																													
	臥薪嘗胆																													
	漢文の窓③																													
四 唐代の詩	絶句																												p150～ 165	A:0 B:0 C:4 計4
	律詩																													
	古体詩																													
	漢文を読むために⑥																													
漢文の窓④																														
五 唐代の文章	雑説																												p166～ 170	A:0 B:0 C:2 計2
	黔之驢																													
	漢文の窓⑤																													
六 孔子の思想	学問・論語七章																												p171～ 180	A:0 B:0 C:4 計4
	学問・孟子一章																													
	政治・論語六章																													
	政治・孟子一章																													
漢文の窓⑥																														
七 唐代の物語	人面桃花																												p181～ 191	A:0 B:0 C:2 計2
	漢文のとびら 桃いろいろ																													
	漢文の窓⑦																													

総計 140